2023 ISE COLLECTION

世界に発信！
伊勢市短詩型文学祭

～入賞作品目録～

伊勢市の観光 PR キャラクター
はなてらすちゃん

応募作品数（計　1,933 点）

短歌　小学生の部（257 点）・ 中学生の部（148 点）

俳句　小学生の部（1,274 点）・ 中学生の部（254 点）

＜発行：令和5年11 月＞
伊勢市情報戦略局　文化政策課（伊勢市岩渕1-7-29）
TEL：0596－22－7885　FAX：0596－21-0424
E-mail：bunka@city.ise.mie.jp

【主催】伊勢市　　【後援】伊勢市教育委員会
【助成】公益財団法人　岡田文化財団

短歌・小学生の部　入賞作品

市長賞

母と見る二階の窓の遠花火宮川の空遠くて広く

小俣小　6年　脇岡（わきおか）　遼（りょう）

【講評】母親と二人で花火という非日常の時間と空間を共有しています。花火のあがった瞬間だけ目の前に照らし出される光景。その光景を直接詠んではいませんが、とてもよく伝わってきます。

教育長賞

自てん車でていぼうはしりきもちいい
みや川ぞいのさくらまんかい

中島小　2年　小椋（おぐら）　詩音莉（しおり）

【講評】堤防を自転車で走ると風の気持ち良さが普段より余計に感じられます。満開の桜の花をながめながら走ることで、その気持ち良さにはなやかさが加わってきて、文字通り気持ちの良い歌です。

特別賞

四年ぶり待っていました高柳赤丸つけたよ一六三八

有緝小　4年　久保田（くぼた）　智士（さとし）

【講評】「四年ぶり」と言う詠み出しに早くも待っていた素直な気持が充分に出ています。カレンダーに付けた一六三八が「赤丸」だったのが居ても立ってもいられない気持のこの上ない表現と言えましょう。

奨励賞

いすず川ラジオ体そう集まってねむい弟ただ見てるだけ

進修小　4年　松田（まつだ）　陽愛（ひな）

奨励賞

一口で波音感じるてこね寿司おばあちゃんとの思い出の味

中島小　6年　小椋（おぐら）　紗友季（さゆき）

奨励賞

休けいの間に食べるかき氷かんこおどりのごく楽時間

上野小　4年　新谷（しんや）　朋生（ともき）

奨励賞

墓参り大好きだった生姜糖ピンクをひとつ「はいばあちゃん」

小俣小　6年　中井（なかい）　優杏（ゆず）

奨励賞

臥竜梅仲良く並んだ梅の実にぼくらみたいやと笑う兄妹

小俣小　6年　中川（なかがわ）　凛音（りん）

短歌・中学生の部　入賞作品

市長賞

伊勢音頭見様見真似で踊りだす
小さな子ども笑みを浮かべて

伊勢宮川中　2年　森（もり）　謙心（けんしん）

【講評】長い年月、地域に愛され伝えられてきた伊勢音頭。小さな子供でも思わず踊り出したくなる親しみやすさが伝わってきます。嬉しそうに踊っている子供の様子が思い浮かびます。

教育長賞

人々のにぎわい静まり神宮の空に三日月浮かぶ夕暮れ

倉田山中　3年　堀井（ほりい）　陽向（ひなた）

【講評】昼間のにぎやかさから、夜の静かさへ橋渡（はしわた）しをする様に夕方の空に浮かんでいる三日月。その三日月に自分の心の静けさや、安らぎを重ねている様です。

特別賞

北風と塩を揉み込む朝熊の小菜父と受け継ぐ祖母の味付け

倉田山中　3年　世古口（せこぐち）　隼虎（はやと）

【講評】伊勢の名産品「朝熊の小菜」を題材にした貴重な作品。上句に「北風と塩を揉み込む」と詠む力量には中学生とも思えない非凡さが伺えます。祖母から父へ、父から子へと、伝統とはこうして作られていく息の長い業の結晶である事を改めて教えられた一首。

奨励賞

重厚感漂う瓦河崎の町並みで知るかつての暮らし

倉田山中　1年　辻村（つじむら）　友花（ゆうか）

奨励賞

赤福の氷の旗に導かれ部活帰りに友と語らう

倉田山中　2年　中村（なかむら）　瑠那（るな）

奨励賞

朝熊山展望台で息を呑む夕日に輝く伊勢の街並み

倉田山中　3年　安島（やすじま）　弘陽（ひろあき）

奨励賞

しめ縄が光を浴びて夫婦岩水面に映る伊勢の名月

港中　3年　小畑田（こはただ）　咲帆（さほ）

奨励賞

紺色の祖母の浴衣を身に纏い伊勢の花火に友と二人で

小俣中　3年　國米（こくまい）　曜（よう）

俳句・小学生の部　入賞作品

市長賞

豊穣の祈り捧げる初穂びき

みなと小　6年　金髙　光真（きんたか　こうま）

【講評】「初穂びき」は、神宮の稲作にもとづく伊勢ならではの行事です。稲が豊かに実ったことへの感謝とよろこび。そして、次の年への期待を込めて祈りを捧げる。初穂を曳く人たちも、見ている人たちも、そのこころが一つになっている感動がつたわってきます。伝統を受け継いでゆく深い内容を、しっかり選びぬいた言葉で表すことが出来ています。

教育長賞

カワセミがビュッとつっこむ五十鈴川

明倫小　5年　加藤　雪舟（かとう　せっしゅう）

【講評】「ビュッとつっこむ」というオノマトペを使った表現が、とても効果的にはたらいています。その巧みな捉え方が、カワセミの一瞬の飛翔の素早さを、読み手に鮮明に想像させてくれます。水中の獲物をねらって、矢のようにつっこむ、長いくちばしや美しい羽根の色、清らかな五十鈴川の静けさなどの情景が伝わってきます。

特別賞

いすずがわイソヒヨドリをみつけたよ

修道小　6年　藤原　有優（ふじわら　あゆ）

【講評】イソヒヨドリは、伊勢市の鳥として制定されたことが、よく知られるようになりました。その鳥をみつけて嬉しかった気持ちが、「みつけたよ」という弾んだ言葉によく表れています。メスは、全体が灰色っぽく、オスの全体は青く、翼は紺、胸は赤みがかった褐色をしています。静かな五十鈴川のほとりで鳴く美しい声も聞こえたかもしれませんね。

奨励賞

ほたるきてやさしく光る横わ川

修道小　4年　中野　詠心（なかの　えいみ）

奨励賞

月夜見の木々のざわめき風かおる

厚生小　4年　名越　奨真（なごし　しょうま）

奨励賞

いせまつりディズニー来るぞ楽しみだ

東大淀小　3年　工藤　逞（くどう　ゆた）

奨励賞

伊勢まいりせかいへいわがねがいごと

小俣小　4年　河本　然吉（かわもと　ぜんきち）

奨励賞

えぞ蝉の声を追いかけ朝熊山

御薗小　4年　藤田　流歌（ふじた　りゅうた）

俳句・中学生の部　入賞作品

市長賞

宮川の水面に映る鮎の影

倉田山中　1年　金子　知生（かねこ　ともき）

【講評】宮川の水面を軽快に泳いでいる鮎と、その影の動きがよく捉えられています。余程の深さまで水が澄んでいないと、影までは見えないでしょう。宮川は、何度も水質日本一に輝いた清流です。その誇るべき水の透明感や、清楚な鮎の姿と、その影までをよく観察できた、感性の鋭い作品です。

教育長賞

罌粟の心乗せ飛ぶ赤とんぼ

小俣中　2年　小林　泰大（こばやし　やすひろ）

【講評】赤とんぼを「罌粟の心乗せ飛ぶ」と見ている、作者の心の眼が素晴らしいです。「憲政の神様」と称された罌粟をよく学び、敬愛しているからこそ、このように見えたに違いありません。空の向こうでは、戦争が続いています。罌粟の眼には、いまの世界がどう映っているのだろうか、と赤とんぼにさりげなく託しているところが巧みです。

特別賞

伊勢の町オヤネザクラが咲きほこる

桜浜中　3年　大西　汰希（おおにし　たいき）

【講評】伊勢の町の桜の名所といえば、宮川堤の桜並木、五十鈴川の桜並木、横輪町の横輪桜などですが、伊勢市指定天然記念物として、旧豊宮崎文庫の「オヤネザクラ」があります。その「オヤネザクラ」が咲き満ちているのを見て、桜が誇りをもっているかのように見えたのでしょう。作者自身がこの桜や伊勢の町を誇りに思っている気持ちも伝わってきます。

奨励賞

横輪川映るホタルは星のよう

港中　2年　八田　里優奈（はった　りゆな）

奨励賞

息合わせえんやえんやと汗ぬぐう

伊勢宮川中　2年　岸　千博（きし　ちひろ）

奨励賞

寒い日に心も満たす伊勢うどん

桜浜中　3年　奥山　心菜（おくやま　ここな）

奨励賞

風が吹き青葉がゆれる五十鈴川

桜浜中　3年　中川　実怜（なかがわ　みれい）

奨励賞

涼しげに神宮すぎがかげつくる

桜浜中　3年　中村　海翔（なかむら　かいと）

（敬称略）

キーワード（上位）

●総　合

順位	キーワード	数
1	伊勢うどん	236
2	花火・宮川の花火	215
3	宮川	121
4	伊勢	109
5	五十鈴川	99
6	夜店・高柳夜店	77
7	伊勢神宮	75
8	赤福氷	68
9	夫婦岩	62
10	伊勢まつり	52

◎小学生部門（短歌・俳句）

順位	キーワード	数
1	伊勢うどん	209
2	花火・宮川の花火	176
3	伊勢	87
4	宮川	80
5	五十鈴川	78
6	夜店・高柳夜店	62
7	伊勢神宮	61
8	赤福氷	55
9	伊勢まつり	45
10	夫婦岩	43

◎中学生部門（短歌・俳句）

順位	キーワード	数
1	宮川	41
2	花火・宮川の花火	39
2	伊勢うどん	27
4	伊勢	22
5	五十鈴川	21
6	夫婦岩	19
7	夜店・高柳夜店	15
8	伊勢神宮	14
9	赤福氷	13
10	伊勢参り	10

その他

〇文化財

伊勢音頭
かんこ踊り
オヤネザクラ

〇場所

朝熊山
二見
河崎

〇食べ物

朝熊の小菜
蓮台寺柿
てこね寿司